第27期第1回評議員会が開かれる

第27期の理事体制になって始めての評議員会が，1993年2月3日に千代田区立産業会館で開かれ，10名の評議員のうち，9名の出席を得て，理事との間で活発な意見交換が行われた．以下に各評議員から出された意見，提言の概要を報告する．

出席評議員（順不同，敬称略）：
岸保勘三郎，新田尚，島貫陸，柳川喜郎，沖大幹，佐藤千鶴子，宮沢清治，榧根勇，土器屋由紀子．
他に，吉武素二名誉会員が出席．

・浅井理事長挨拶

気象学会会員約4,000名のうちに占める気象庁職員の数も2,000名を割っており，学会の構成も変貌してきている．評議員会も，かつては長老の方から御意見を拝聴する場といった性格であった．今期は，できる限り幅広い人たちから御意見を伺い，学会の運営に生かしていくために，いろんな分野から人選してお願いした．宜しくお願いしたい．

・評議員からの発言の概要

(岸保)最近では，国際協力など当たり前になりつつあるが，1970年代始めの東太平洋での GATE がその最初ではなかったか．あの時には，日本にも参加要請があったが，日本気象界の力量不足で参加できなかった．最近では，西太平洋での海気相互作用の問題や，ゴビ砂漠での研究観測，太平洋台風センターの活動などがあり，様変わりした感がある．

(新田)学会の事務局体制が強化されたことは非常にいいことだ．もう少し収入も確保したうえで，学会活動も含めた体制の一層の強化をされてはどうか．研究課題でいうと，将来は観測から報道活動に至る幅広い気象情報システムに対応した，総合的・工学的研究があってもいいのではないか．『教養の気象学』の内容が古いので，全面改訂を検討されてはいかがか．(全面改訂を検討中である旨，教育と普及担当理事から補足発言)

(島貫)教員養成に長年携わってきたことや，東京にいることから，その方面のお手伝いをしてきたが，評議員は初めて．学校現場での気象教育は，必ずしも良くなっていないと思う．NHK などを始め，面白い本や番組も沢山あるのに，理科教育は衰退している．特に，地学，気象関係の発言力が弱い．高校で地学を履修するのは文系か非進学者で内容のある教育はあきらめざるを得ない状況だ．それに比べれば，中学ではまだ頑張っており，他の教科を圧倒する勢いだ．中学での気象教育を重視する必要がある．

(柳川) NHK で仕事を始めた最初の頃から，30年近い気象とのお付き合いになる．現在の気象庁の新庁舎ができて，最初の台風中継をやった思い出がある．気象学会の存在は知っていたが，どのような活動をされているかは知らなかった．調べものの関係で明治の頃の『気象集誌』を誌んでみたが，非常に示唆に富んだものが多い．気象学会もあの頃にならって，もっと社会に向かって発言されてはいかがと思う．文化系の人間から見ると理科系は専門化が進んでおり，タコツボ的で周りが見えていない．学際的な方面を推進することが最大の任務だろう．外野席から応援したい．

(沖) 自分は土木工学が専門で気象はアウトサイダー．学会の名薄で気がつくことは，気象学会のアウトサイダーとみなされる人は，個人個人の欄に住所まで記入されており，そうでない人は所属だけで住所が別のところに書いてあり，すぐに区別がつく．それはともかく，住所録にはファックス番号もつけた方が便利だと思う．評議員会に出席するにあたり，ymnet(気象学会の若手を中心に構成された電子メイリングリストで，全国で66名が登録されている）で若手アンケートを行った．31名から回答を得た．結果を別紙のようにまとめたので，きょうの評議員会の参考にしてほしい．(配布されたアンケート結果については，別の機会に『天気』紙面で紹介する予定)

(佐藤) 昭和48年から20年，研修監理員として JICA の研修で来日した各国の人たちとご縁があった．途上国では気象は地味な業務で，最貧国では業務もごく限られている．日本は数値予報や衛星の世界の三大センターのひとつで，期待されている．研修員はその国ではかなりのエリート．著名な学者の方に直接お合いできることは光栄なので，懇談する機会を作っていただければ，気象事業について有意義な話し合いができると思う．(この件に関しては，東京大学訪問を研修のスケジュールに組み込む方向で調整中．)学会の国際交流の一環として，途上国の将来性のある若い人も奨励金の対象にしていただくとか，1～2年間に限って会費を免除して会員にしていただくと，励みになっていい

と思う．夏季大学については，質問に答えるような簡単な形式でいいから，夏季に限らず年に何回かあると参加しやすい．学会とは直接関係ないかも知れないが，天気予報で「輪島の上空に寒気」という表現を繰り返し聞くと，「なぜ寒気はいつも輪島の上空にあるんだろう」と素朴な疑問を持つ素人もいる．身近な表現だとありがたい．また，幕張で開かれた防災会議で，「最近大型台風が来ないので，台風の怖さを知らない人が多い」というパネリストの言葉を聞いた研修員が，札幌の科学館にあったウインタースポーツのスリルを体験する設備の代わりに，強風の怖さを体験できる設備にすればいいのにと言っていた．

(宮沢)いつもテレビで何か言うと，すぐに苦情がくる．上空の寒気にしても，限られた時間内で解説するのは難しい．ここ2～3年，どこへ行っても天気予報が良く当たると褒められることが多い．地方の時代と言われ，地方から情報が出る時代になっているが，気象では地方研究が少なくなっているのではないか．専門化は時代の流れではあるが，『天気』，『集誌』，『気象』などの雑誌で，内容のレベルに応じた整合をとって欲しい．気象審議会18号答申に関連して「技能検定制度」には関心をもっている．学会がイニシアティブを発揮して欲しい．

(榧根) IAMAP/IAHS の水文側の事務局を担当しているので，こういう場に呼ばれたのだと思っている．何とか赤字を出さずに切り抜けたい．先日，バングラデシュの研究者を受け入れた．彼によると Solar pond effect という効果のために，海水の上に乗った淡水層が下の海水層と入れ代わり，これが大きなサイクロンが発生する原因だという．本当かどうかは知らないが，大気と水の相互作用は一次元ではないことの一例だ．気象現象は与えられるもので，人間にはどうしようもないものなのか．農業で陸地の状態を変えると気象の何かが変わるのか．このような問題を研究するため，関連学会でもっと協力をしていく必要がある．どこの弱小学会でも学会活動を今後どうしていくかが大きな問題になっている．人間との関係をもっと考えていかないと，やることがなくなってしまうと思う．

(土器屋)女性も少し入れておかなければ，ということで私が選ばれたのだと思う．最近，女性の研究者も随分増えてきた．ただ，婦人のために特別に何かをやってもらうよりは，一般の人と同じに扱ってもらえばそれでいい．私は周辺分野が専門で，日本化学会にも入っているが，会員が3万人，学会予稿集も電話帳のようなものが3冊もある．それに比べると，気象学会はまだ人間の顔をしていると思う．今後，気象学会も大きくなっていくだろうが，それがいいかどうか分からない．あまり大きくなり過ぎるのも考えものだ．

・浅井理事長から発言

貴重な御意見をいただき大変有難うございました．春秋のシンポジウムでは，できるだけ周辺領域の人たちとも交流できる機会を作っているが，今後もその方向でやっていきたい．地方研究の問題であるが，私が大学に入ったころは活発だったと憶えている．各地域の特有の問題に関する調査・研究も大事なことなので，大いに元気づけることをしていかなければならないと思う．途上国の人に対する学会からの援助の話があったが，学会の契励金は研究機関に属さないで熱心にやっている人を励ますことを目的にやってきた．今までは外国の人に，という発想はなかったが，学会として考えねばならないことだ．

評議員会で出された意見等の概略は，以上の通りであった．今後，実行可能なものから学会の活動，政策に取り入れていきたい．（文責：大西庶務担当理事）